

文部科学省 持続的な産学共同人材育成システム構築事業
『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』

REIM産学連携コンソーシアム合同会議(令和2年度第1回)

会議名	REIM産学連携コンソーシアム合同会議(令和2年度第1回)			
日時	令和2年6月19日(金) 15:00~17:00			
場所	キャンパスプラザ京都 第3会議室			
出席者(18名, 敬称略):				
カテゴリ	所属	役職	氏名	備考
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	理事長	霜上 民生	
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	部長	先本 勉	
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	チーフ	小室 篤史	
連携企業	西日本高速道路株式会社	技術研修担当課長(茨木技術研修センター長)	福富 章	
連携企業	一般社団法人建設コンサルタンツ協会近畿支部	参与(建コン協近畿)	田底 成智	
連携企業	一般社団法人建設コンサルタンツ協会近畿支部	参与(建コン協近畿)	廣瀬 彰則	
連携校	長岡工業高等専門学校	校長	原田 信弘	
連携校	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義	
連携校	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川 清剛	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	校長	内海 康雄	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田 和也	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵	
連携校	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江 正樹	
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授, 学長補佐(高専連携担当)	武田 雅敏	
地域連携機関	京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会	副会長(京都府中丹広域振興局建設部長)	八田 直哉	
地域連携機関	京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会 京都府中丹東土木事務所	主査	木野 真一郎	(オブザーバー)
地域連携機関	京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会	副会長(舞鶴市建設部長)	矢谷 明也	
オンライン出席(計21名, 敬称略):				
連携校	福島工業高等専門学校	校長	山下 治	
連携校	福島工業高等専門学校	准教授	江本 久雄	
連携校	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野 貴元	
連携校	長岡工業高等専門学校	教授	井林 康	
連携校	長岡工業高等専門学校	准教授	陽田 修	
連携校	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山 聡	
連携校	福井工業高等専門学校	校長	田村 隆弘	
連携校	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦	
連携校	福井工業高等専門学校	助教	樋口 直也	
連携校	福井工業高等専門学校	嘱託教授	阿部 孝弘	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	准教授	毛利 聡	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	総務課長	室溪 浩	
代表校	舞鶴工業高等専門学校	総務係長	芦田 康弘	
連携校	香川高等専門学校	校長	安蘇 芳雄	
連携校	香川高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	林 和彦	
連携校	香川高等専門学校	助教	長谷川 雄基	
協力機関	独立行政法人国立高等専門学校機構	研究総括参事	佐藤 貴哉	
連携校	放送大学学園	副学長	池田 龍彦	
連携校	放送大学学園	オンライン教育センター長・教授	近藤 智嗣	
連携校	放送大学学園	課長補佐, 社会連携コーディネーター	樋口 徹	
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授	岩崎 英治	

議事次第

1. 挨拶

- (1) 議長挨拶 舞鶴工業高等専門学校 校長 内海 康雄
- (2) 挨拶 近畿建設協会 理事長 霜上 民生 様

2. 今年度の事業概要と昨年度の成果

- (1) 事業実施計画
- (2) リカレント教育拠点整備

3. 各部会からの報告

- (1) リカレント教育プログラム開発部会の報告
- (2) 実務家教員育成研修プログラム開発部会の報告

4. 創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点取組紹介）

運営拠点代表校：東北大学高等教養教育・学生支援機構大学教育支援センター

5. 高専におけるインフラメンテナンス人材育成の推進に向けて（意見交換）

<テーマ>

- ・リカレント教育プログラムの普及と受講促進について
- ・実務家教員候補者の発掘について

6. その他（今後の予定, 事務連絡等）

【開催状況】



写真1 近畿建設協会 霜上理事長挨拶



写真2 舞鶴高専 内海校長挨拶



写真3 コンソーシアム合同会議



写真4 コンソーシアム合同会議



写真5 コンソーシアム合同会議



写真6 コンソーシアム合同会議

文部科学省 持続的な産学共同人材育成システム構築事業
『K O S E N型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』

REIM産学連携コンソーシアム合同会議(令和2年度第1回)

議事録

1. 挨拶

- (1) 議長挨拶 舞鶴工業高等専門学校 校長 内海 康雄
- (2) 挨拶 近畿建設協会 理事長 霜上 民生 様

2. 今年度の事業概要と昨年度の成果

(1) 事業実施計画

✓昨年度は事業立ち上げ，今年度はプログラム開発を中心に実施する。来年度以降に繋がる重要な年度である。

(2) リカレント教育拠点整備

✓5高専の実物劣化教材実習フィールド整備状況，及び，実物劣化教材展示パネルについて，事務局から説明。

3. 各部会からの報告

- (1) リカレント教育プログラム開発部会の報告
 - (2) 実務家教員育成研修プログラム開発部会の報告
- ✓各部会議事録を参照

4. 創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点取組紹介）

運営拠点代表校：東北大学高等教養教育・学生支援機構大学教育支援センター

✓実務家教員の定義や目標は，各拠点で設定する。高専REIM事業の実務家教員は，インフラメンテナンスを教えることができる教員とする。

✓運営拠点（東北大学・熊本大学）は，各拠点の実務家教員がどういったことを学んだかをDB化し，人材エージェントとして斡旋する役割を担う。

5. 高専におけるインフラメンテナンス人材育成の推進に向けて（意見交換）

✓本事業責任者である玉田委員をコーディネーターとする。

<テーマ>

・リカレント教育プログラムの普及と受講促進について

✓舞鶴市の人材不足は深刻で，近年は応募もない。建設業の面白さを若い世代に伝えていかなければならない。（矢谷委員）

✓iMe cのリカレント教育は，メンテナンスを勉強していない土木技術者にメンテナンスを教えるところからスタートしたが，今は，人材のすそ野を広げるとい

目的も加わっている。コンテンツとしては、導入編がこれにあたる。(玉田委員)
✓京都府も職員の応募が少なく、土木職員の応募でも土木工学科出身者がいない。橋梁の基礎的なことを学んでいないと、仕事はできるが橋梁の構造の理解ができな
いため、なかなかステップアップできない。導入編あたりを手厚くしてほしい。

(八田委員)

✓地域連携について、香川県の中でも各自治体と話をしているが、全体で悩みを共
有する場は必要である。2022年度の基礎編5回開催も実現可能と考えている。

(林委員)

✓OB職員は既に活用しているが、いったんOBになると若手を育てる意識を保つこ
とが難しいように思われる。(八田委員)

✓構造物がどのようにつくられ、組み立てられているかが分かることが大事であり、
これが分からない技術者が点検した結果は信用できない。守りのメンテナンスから
攻めのメンテナンスへ、といった発想の転換が必要ではないか。(廣瀬委員)

✓働いてから学ぶことが多いため、学び直しとしてのリカレントは良いと思う。現
場ではない積算の業務であっても、橋のことを知る必要性を感じた。(小室委員)

✓5年に1回定期点検に加え、4車線化、新規、耐震補強などあり、新規採用が多
い。大学では構造力学や土質工学は習うが、橋のことはあまり習わないため、社内
で教育することになるが、教える方も忙しいし、教え方も知らない。教え方を学ぶ
ことで教育の効率も上げられるので、実務家教員をうまく活用できればと考えてい
る。

(福富委員)

・実務家教員候補者の発掘について

✓経験があり、どこが問題かわかることが大事なので、リタイアもしくはリタイア
直前の人で気力があり健康な人が理想ではないか。加えて企業のサポートがあるこ
とも重要である。ライフサイクルマネジメントの視点からメンテナンスを考えると
若い人にもイメージしやすい。現場が大事であり、リカレント教育において、産官
学の実務家教員が教えることは意義があると考えている。(池田委員)

✓実務家教員の能力は、中堅技術者にも大切な能力なのだと訴えたい。社員研修と
して企業が実施しているリーダー研修やマネジメント研修に加え、エンジニアのた
めの研修として必要な能力を修得するというのを売り込めないか。(林委員)

✓技術力の高い人間に若手の教育をさせるが、業務が多忙で教育に注力できない。
今後は、トップクラスでなく、その下のクラスが若手を教えるということをして
いかと思っている。(福富委員)

✓OJTの中で人を育てている。リーダー的な人を育てていくということ、教え方を
指導していくことが人材を効率的に育てていくことになり、生産性向上につながる。
(霜上理事長)

✓社内で教育をしているが、教え方や技術伝承のやり方を改めて指導していただ
くと、もっと効率的に行えるのではないか。自分の足りない部分を補填してくれるプ
ログラムではないかと思う。(宮川特命助教)

✓実務家教員の候補は企業の中堅の方がいいと思うが、候補となる人や企業としてのメリットを見える形で示すことが必要ではないか。（武田委員）

✓製造業におけるリカレント教育の経験があるが、大企業は自社でできるが、中小企業にとって、リカレント教育システムはメリットがある。実務家教員については、個人や企業としてメリットは難しいが、実務家教員を育成するプログラムは必要であるとする。（原田委員）

✓OB が集まって活動しているCVV（Civil Veterans & Volunteers）という組織に所属している。実務家教員についてCVV 定例会で説明いただけると候補者が出てくるかもしれない。（先本委員）

（まとめ：コーディネーター 玉田委員）

いい製品を開発したが売れない、という例はいくらでもある。売り方を考えないといけない。そこを乗り越え、よりより社会を後世に残したい、という視点で、独りよがりではなく意見を伺いながら進めていきたい。

6. その他（今後の予定、事務連絡等）

✓外部評価定、インフラメンテナンス国民会議近畿フォーラム2020への出展、i Mecフォーラム2020の開催の予定について、事務局から説明。

以上